

令和 3 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立

常陽中

学 校

令和3年度 学校評価

【教育の基本方針】(尼崎市教育振興基本計画)

- 1 未来志向の教育
- 2 個の尊厳や人権の尊重
- 3 家庭・地域社会との連携(子どもの視点に立った教育)

[各校の重点取組について]

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| ① 生徒が主体的に学ぶ授業づくりに努める。 | ② 規範意識の醸成と授業規律の遵守に努める。 |
| ③ 家庭学習の充実・自学自習の習慣づけに努める。 | ④ 生徒会活動等の充実による、リーダー育成に努める。 |

学 校 評 価 の 観 点

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.5	3
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び縦のつながりを重視した校種間の連携に努める (2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る (5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る		

取組	成果	課題と改善策
・ICTを積極的に活用した授業を公開し、教員間で相互に参観し、意見交換を行った。 ・自主学習ノートに取り組み、素晴らしいノートを掲示したり、ページ数を表彰するなど生徒の意欲向上につなげた。 ・特別支援コーディネーターを中心に定期的に特別支援委員会を実施し、生徒の情報交換を行うとともに、支援方法を検討した。 ・保健体育科・家庭科の授業を通して生活習慣病の知識を深め、望ましい生活習慣の育成に取り組んだ。 ・保健体育科の授業に毎時間持久走を導入し、持久力の向上に取り組んだ。	・ICTを活用した授業方法を共有することができ、自身の授業に生かすことができた。 ・家庭学習の充実と自学自習の習慣を図ることができた。 ・生徒一人一人を大切にしたいきめ細やかな指導につなげることができた。 ・新体力テストの結果から、昨年度より持久力が向上した。	・ステップアップ調査の結果を多角的に分析することにより、教員の指導方法を改善し、授業力の向上をさらに図る必要がある。 ・運動する生徒としない生徒の二極化が進んでいる現状を踏まえ、保健体育科の授業や部活動、そして、体育的行事を通して、運動習慣を身に着ける必要がある。

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.5	3
(1) 基本的生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る (5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める		

取組	成果	課題と改善策
・「あいさつ尼崎一」を目標に掲げ、登下校・授業・朝学活・終学活などでのあいさつの徹底に取り組んだ。 ・「時を守り・場を清め・礼を正す」を生徒努力目標とし、生徒の意識を高め、礼節を身に着けた集団を目指した。 ・毎学期、教育相談を実施し、生徒の内面の理解に努めるとともに、教員で情報交換を丁寧にし、いじめに対する態度の向上に取り組んだ。 ・毎学期、アセスの調査を行い、誰もが過ごしやすい学校の環境づくりに努めた。 ・職業選択や、進路選択について、講師を招聘し講演会を行った。	・自ら進んで、相手の目を見て気持ちの良いあいさつを交わらせる生徒が増えた。 ・始業3分前に着席をして授業に備えるなど生徒努力目標を意識した生活習慣が身についた。 ・常に丁寧な指導を心がけ、生徒の内面に寄り添い、いじめの早期発見・早期対応につなげることができた。 ・アセスの分析の方法を研修し、学校全体で情報を共有するとともに、対応を協議し、誰もが過ごしやすい環境づくりを進めることができた。	・教員から積極的にあいさつなどの声かけを行うなど、さらに生徒との信頼関係を構築することが必要である。 ・いじめに対する教員の態度をさらに向上させるとともに、組織的に対応する体制をさらに強化する必要がある。 ・1年生での職業体験の講演会、2年生でのトライやるウィーク、3年での進路選択と3年間を見据えた指導体制をさらに構築させる必要がある。

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む			評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める			4	4
取組	成果	課題と改善策		
・研究推進体制として、全教員が「総務チーム」「学力向上チーム」「小中連携チーム」のいずれかのチームに所属し、研究に取り組んだ。 ・定時退勤日を週に2日間設定し、業務改善に取り組んだ。 ・全校生徒により、年間2回「ふれあい清掃」に取り組んだ。	・1・2年生のステップアップ調査や3年生の学力調査の結果を有効に活用し、生徒の実態を分析するとともに、教員の指導法を振り返り、改善につなげることができた。 ・教員の業務改善への意識を改革することができた。 ・地域の方に支えられるだけでなく、生徒の積極的に地域貢献する気運が高まってきた。	・ICTを活用した、生徒にとって魅力ある授業づくりに、さらに取り組む必要がある。 ・定時退勤日の完全実施率100%を実現することが必要である。 ・ICTの活用などに関して、小中の連携をさらに深める必要がある。		

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る			評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る			4	4
取組	成果	課題と改善策		
・AEDの使用方法や心肺蘇生法などの救急救命講習を保健体育科の授業を通して2年生全員に指導した。 ・尼崎市消防局から講師を招聘し、救急救命に関する職員研修を行った。 ・給食の開始に伴い、食物アレルギーを想定し、職員全員でシュミレーション研修を行い、尼崎市消防局の職員から指導助言を受けた。 ・登下校の安全確保のため、定期的に生徒の登校状況を把握し、朝礼等を利用して生徒への注意喚起に取り組んだ。 ・自然災害を想定し、避難訓練に取り組んだ。	・生徒・教員の救急救命に関する意識を高めることができた。また、基本的な技能も身に付けることができた。 ・阪神淡路大震災で被災した教員からの講話により、自然災害を身近なものと認識し、危機管理に対する意識を高めることができた。	・予告なしの避難訓練など、実施方法の工夫が必要である。 ・生徒会活動の一環として、生徒会が中心になって、生徒自らが、自身の安全を確保するための自主的な取り組みや安全に対する意識のさらなる向上が必要である。		

教育目標			評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
			4	3.5
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実				
取組	成果	課題と改善策		
・全教員が授業改善に積極的に取り組んだ。 ・生徒の特性に応じたきめ細やかな指導により、規範意識のさらなる向上に取り組んだ。 ・全教員で授業規律について、共通理解を図った。 ・自主学習ノートを活用し、家庭学習の充実と自学自習の習慣化に取り組んだ。 ・長期休業中の課題や日々の授業の課題などの提出に重点的に取り組んだ。 ・定期テストの間違い直しや授業の振り返りに積極的に取り組んだ。	・主体的に学ぼうとする姿勢が身についた生徒が増えてきた。 ・規範意識の醸成と授業規律の遵守により、落ち着いた学習環境を整えることができた。 ・自ら進んで課題が提出できる生徒が増えた。 ・意欲的に自主学習ノートに取り組むことのできる生徒が増えた。	・ICTを積極的に活用するなど、教員が授業改善にさらに取り組む必要がある。 ・自主学習ノートの取り組みだけでなく、家庭学習の充実と習慣化につなげる手立てが必要である。		

研究テーマ			評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
			4	3.5
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実				
取組	成果	課題と改善策		
・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に全教員で取り組んだ。 ・発達に特性が見られる生徒に対して、巡回訪問等で専門家からのアドバイスを受けた。	・生徒の学習活動が活発に、そして、積極的に変容した。 ・専門家からのアドバイスを全教員で共有することにより、生徒理解が深まり、適切な指導を行うことができた。	・生徒に配布されているタブレットを有効に活用し、生徒にとって魅力ある授業づくりにさらに努める必要がある。 ・生徒一人一人の特性に応じた、きめ細やかな指導をさらに心がける必要がある。 ・巡回相談等の回数を増やすなど、定期的に専門家からの指導助言をいただく必要がある。		

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
1:取組が不十分である

学 校 関 係 者 意 見 等	評価Ⅲ
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む ・健康や体力向上の取り組みは、認知度も高く、保護者・生徒ともに達成感があり、教員も自信を持って対応していると思われる。 ・学力向上に対しての教員の取り組みは充実しているが、生徒の意欲・家庭生活の変容が必要と考える。特に2年生の保護者の意識と生徒の授業への取り組み、そして、家庭学習の充実が必要である。 ・学校評価アンケートから、全体的に熱心に取り組んでいることが読み取れる。特に、保健体育科・家庭科等への興味が高いが、5教科への取り組みの改善が必要である。	2.5
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る ・規範意識を養い、落ち着いた学校生活の中で自己肯定感を育み、教育相談の充実により、3年間の計画的なキャリア教育が行われている。 ・道徳教育・各種行事の取り組みを通して、生徒の心の成長を促している。 ・支援を必要とする生徒への配慮や学級でのお互いの気配りが読み取れる。また、部活動において自己目標を持たせて活動に取り組ませていることも読み取れる。 ・人間として、成長させる努力が感じられ、今後に期待が持てる。	3
3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む ・創立当初より地域に根差した学校づくりに取り組み、家庭・地域との連携実績があり、保護者アンケートでも90%以上の認知度を示している。 ・小規模校の特性を活かし、さらなる連携の充実期待する。 ・新型コロナウイルスの感染拡大防止により、行事等の連携ができていない部分があるが、学校関係者のできる限りの努力により、家庭・地域と十分にコミュニケーションをとることができている。今後も、地域との交流を通じた行事等を実施できることを期待している。	4
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る ・校区や校区内の安全点検を育友会や地域の方との連携を兼ねて実施することで、防災意識の高揚につなげることができる。コロナ禍で集団での動きが困難なことが多かったが、安心・安全のためにも集団行動の徹底が重要である。 ・学校関係者の努力により、日常における中学校生活が健全に進められている。 ・今後、大災害が発生することが予測されており、災害時における自助(自身・家族を守る)・共助(手助けする)について、自らが研究し、防災意識を高め、地域住民と合同での防災訓練が必要であるとする。	3
■教育目標 ・コロナ禍の中で教科指導・各種行事・部活動・地域連携など、教員の創意工夫により充実した学校生活を実現し、生徒・保護者・地域から信頼される学校として教育目標を達成できている。 ・学校が取り組んでいる事柄の理解、そして、保護者と生徒とのコミュニケーションツールとして、教育目標について、保護者へ広報し、周知することが必要である。	3.5
■研究テーマ ・コロナ禍により、教科指導が大変困難であったが、教員は、創意工夫し、よく努力している。しかし、生徒の家庭学習・自学自習への取り組みが不足しており、学力向上の成果が不十分である。 ・生徒指導・発達系の生徒への取り組み、3年間を見通したキャリア教育などは十分に組み込んでいる。 ・研究課題について、熱心に取り組んでいる。今後も継続して取り組むことで、さらに素晴らしい常陽中学校を形成することができると考える。	3
■	
評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	A
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B